

第4文型 (SVOO) → 第3文型 (SVO) の変形

前回は、

She made dinner.



この第3文型に **me** (間接目的語) を足して、

She made **me** dinner.

→ 第4文型に変化させた。

今回はこの第4文型

She made **me** dinner.

を基に、第3文型を作る。

まず、

She made **me** dinner.から

↓ me を消すと…

She made dinner.と第3文型に

戻るのが分かる。

しかし、me (私に) が無くなった。

そこで、後ろから (私に) を継ぎ足す。

She made dinner

彼女は 作ってくれた 夕食を

for me.

私に

ここまでが第3文型

Modifier (修飾語)

主語 (S)

述語 (V)

目的語 (O)

補語 (C) のいずれにも  
属さない部分

なので、実際には

She made dinner.  
主語 (S) 述語 (V) 目的語 (O)

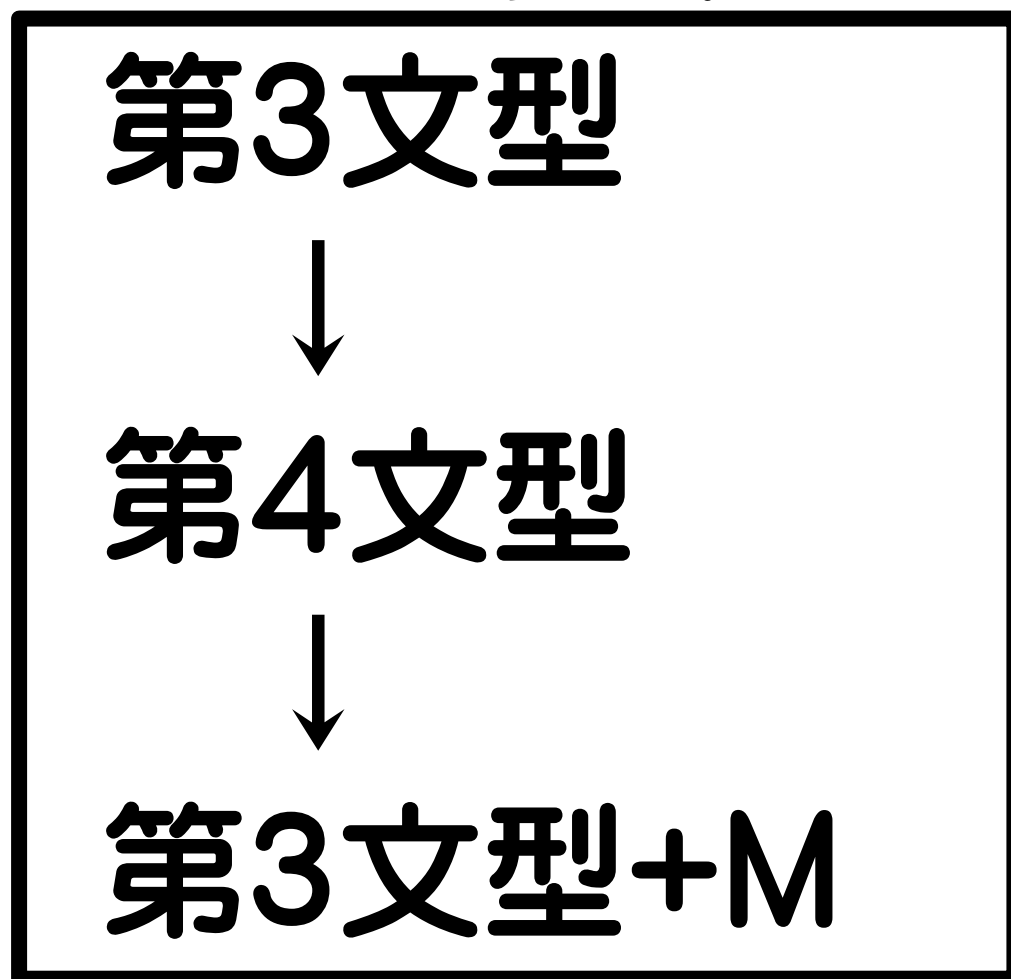


She made me dinner.  
主語 (S) 述語 (V) 間接目的語 (O) 直接目的語 (O)



She made dinner for me.  
主語 (S) 述語 (V) 目的語 (O) 修飾語 (M)

という具合に変形していく。



の変形パターンと考えよう。

# 例文①

○ He made lunch.

第3文型

○ He made me lunch.

第4文型

○ He made lunch **for me.**

第3文型

+M

# 例文②

○ She bought a book.

第3文型

○ She bought me a book.

第4文型

○ She bought a book

for me.

第3文型

+M

# 例文③

○ She showed a picture.

第3文型

○ She showed me a picture.

第4文型

○ She showed a picture **to me.**

第3文型

+M



# 例文④

○ She lent some money.

第3文型

○ She lent me some money.

第4文型

○ She lent some money

to me.

第3文型

+M

ここで1つ疑問が発生する。

上の例文①②は、

第3文型 **+M** の **+M** の箇所に、

**for me** と、前置詞 for を使っている。

これに対して、例文③④の場合は同じ箇所を、

**to me** としている。では、果たして

この違いは

どこから来るのか？

# for と to の使いわけ方

必ずしも相手方が存在する必要のない行為をする場合は、for を使い、必ず相手方が存在しないとできない行為をする場合は to を使う。

## たとえば、例文①

He made **me** lunch. (第4文型)

彼は**私に(対して)**昼食を作ってくれた。

→**私に(対して)**昼食を作ったわけだけど、  
仮に昼食を作ってあげる相手がいなくても、  
彼は**昼食を作ること自体**はできる。

→なので、make (作る) は必ずしも相手方が存在  
する必要のない行為なので→**for** を使う

→He made lunch **for** me. (第3文型+M)

## 例文②

She bought me a book. (第4文型)

彼女は私に対して本を買ってくれた。

→これも同様に、**私に(対して)**本を買ったわけだけど、  
仮に本を買ってあげる相手がいない場合でも、  
彼女は**本を買うこと自体**はできる。

→なので、buy (買う) は必ずしも相手方が存在する  
必要のない行為なので→**for** を使う

→She bought a book **for** me. (第3文型+M)

## これに対して、例文③

She showed me a picture. (第4文型)

彼女は私に写真を見せてくれた。

- 私に (対して) 写真を見せたわけだが、  
写真を見せる行為は相手方がいないとできない。
- なので、show (見せる) は必ず相手方が存在  
する必要のある行為なので、→ **to** を使う

→ She showed a picture **to** me. (第3文型+M)

## 例文④

She lent me some money. (第4文型)

彼女は私にいくらかのお金を貸してくれた。

- 私に (対して) お金を貸したわけだが、  
お金を貸す行為は相手方がいないとできない。
- なので、lend (貸す) は必ず相手方が存在する  
必要のある行為なので、→ **to** を使う

→ She lent some money **to** me. (第3文型+M)

## 例文⑤

He passed me the salt.

→pass(手渡す)は、必ず相手方が要るので

He **passed** the salt **to** me.

彼は私に塩を取ってくれた。

## 例文⑥

She found me the job.

→find(見つける)は、必ずしも相手方が要らないので、

She **found** the job **for** me.

彼女は私に仕事を見つけてくれた。



## 例文⑦

He sold me a car.

→sell(売る)は、必ず相手方が要るので

He **sold** a car **to** me.

彼は私に車を売ってくれた。

## 例文⑧

He told me the truth.

→tell(伝える)は、必ず相手方が要るので

He **told** the truth **to** me

彼は私に真実を伝えてくれた。

## 例文⑨

He got me a ticket.

→get(取ってくる)は、必ずしも相手方が要らないので

He **got** a ticket **for** me.

彼は私にチケットを取ってくれた。

## 例文⑩

He taught me English.

→teach(教える)は、必ず相手方が要るので

He **taught** English **to** me.

彼は私に英語を教えてくれた。

## 例文⑪

She sang me a song.

→sing(歌う)は、必ずしも相手方が要らないので

She **sang** a song **for** me.

彼女は私に歌を歌ってくれた。

↑ここまでは、**for** か **to** か比較的判別しやすいと思う。そこで次に

**for** か **to** か**悩むパターン**を検証しよう。

## 例文⑫

My mother read me a book.

母親が私に本を読んでくれた。

→「(本を)読む」という行為は、必ずしも相手方が要らない(一人でもできる)ので、

My mother **read** a book **for** me.

と、こう行きそうになる。

でも、たぶんこれは間違ってる。

なぜなら、この場合の read は、  
「read」(本を)読む ではなく、  
「read」(本を)読み聞かせる  
という意味なので、  
「読み聞かせる」という行為は、  
必ず相手方が要る。 なので、  
My mother **read** a book **to** me.  
母親が私に本を読み聞かせてくれた。  
とこうするべき。

この考え方の根拠として、以下のような成句がある。

**read to oneself 黙読する**

→ He read to himself.

彼は黙読した。 という意味になるが、

↓これは

He read **(a book)** to himself.

というように、**(本)**を省略した形だと考えられる。

彼は**(本を)**彼自身に読み聞かせた。 → **彼は黙読した。**

となるわけだ。

この成句で、**to** を使うということは、

My mother read me a book.

の場合にも

My mother read a book **to** me.

とする方が整合性がある。

なので、この場合は **to** を使う。

## 例文⑬

She wrote me a letter.

彼女が私に手紙を書いてくれた。

→これも、「(手紙を)書く」という行為は、必ずしも相手方が要らない(一人でもできる)ので、

She **wrote** a letter **for** me.

とこう行きそうになる。



しかし、そもそも「手紙」というのは、相手方が存在しないと書けない(相手方が存在しない手紙というのは「ただ文章が書かれた紙」じゃないかな)ので、この場合も

**She wrote a letter to me.**

彼女が私に手紙を書いてくれた。  
とすべき。

最後に一番ややこしいパターン

## 「leave」のこす

これを考えて、このファイルは終わりにする。

### 例文⑭

My mother left me some cookies.

と

### 例文⑮

My father left me a fortune.

この2つの例文を検証する。

例文を検証する前に、もう一度 for と to の使い分けを考える。

for → 必ずしも相手方が要らない行為

to → 必ず相手方が要る行為

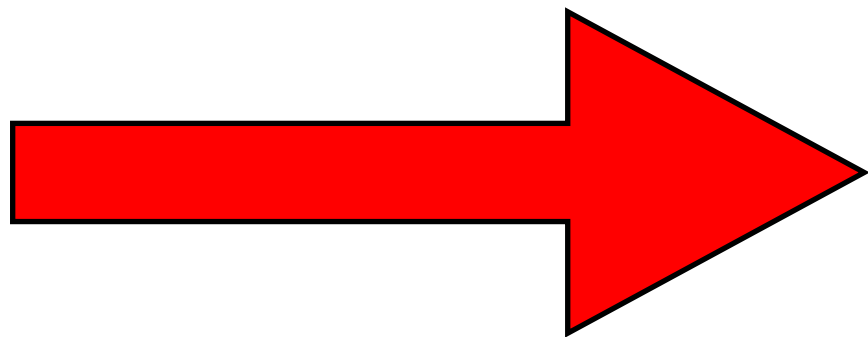
↑この基準を基に for と to を使い分けていたわけだけど、実は for と to を使い分ける基準がもう一つある。

それは、

物が実際に目標に到達しているか否か

すなわち、

for は

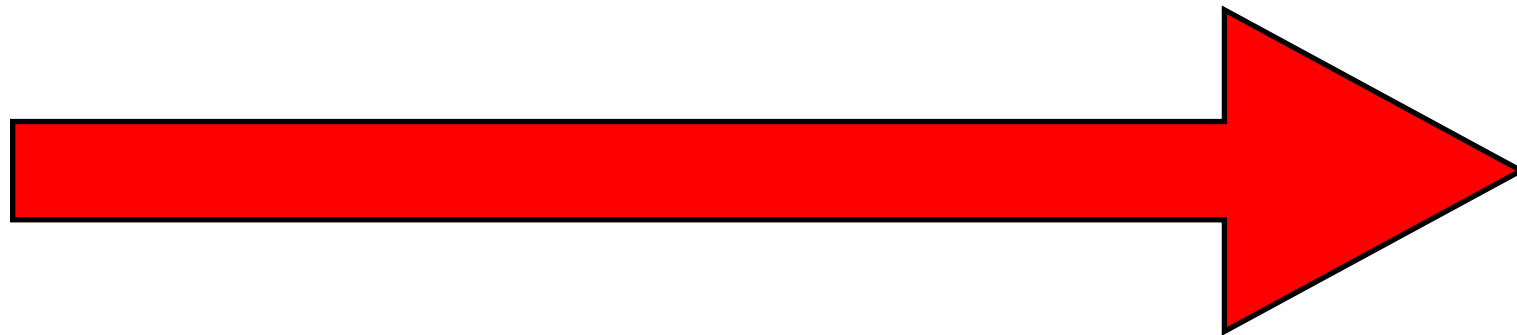


目標

目標に向かっているが、実際にはまだ  
目標に到達していない状態

これに対して、

to は



目標

目標に向かって行き、実際に  
目標に到達した状態

この考え方を基に再度、例文①～⑬を検証してみよう。

## 例文①

He made me lunch.

→彼が昼食を作った時点で、まだ私に昼食は到達していない。

なので

He made lunch **for** me.

## 例文②

She bought me a book.

→彼女が本を買った時点で、まだ本は私に到達していない。

なので

She bought a book **for** me.

### 例文③

She showed me a picture.

→彼女が写真を見せた時点で、私は写真を見ている（見せるという目標が到達している）

なので

She showed a picture to me.

### 例文④

She lent me some money.

→彼女がお金を貸した時点で、お金は私に到達している。

なので、

She lent some money to me.

## 例文⑤

He passed me the salt.

→彼が塩を手渡した時点で、塩は私に**到達している**。

なので

He passed the salt **to** me.

## 例文⑥

She found me the job.

→彼女が仕事を見つけた時点で、私が**就職したわけではない**。

なので

She found the job **for** me.



## 例文⑦

He sold me a car.

→彼が車を売った時点で、車は私に**到達している**。

なので

He sold a car **to** me.

## 例文⑧

He told me the truth.

→彼が**真実**を伝えた時点で、私は**真実を知った**。

なので

He told the truth **to** me

## 例文⑨

He got me a ticket.

→彼がチケットを取って来た時点では、チケットは私に**到達していない**。  
なので、

He got a ticket **for** me.

※仮に例文⑨が、bring (持ってくる) ならば、

He brought me a ticket.彼は私にチケットを持って来てくれた。

→彼がチケットを持って来た時点で、チケットは私に**到達している**。  
なので、

He brought a ticket **to** me.

となる。

## 例文⑩

He taught me English.

→彼が英語を教えた時点で、私は英語を**学んだ**わけだ。  
なので、

He taught English **to** me.

彼は私に英語を教えてくれた。

## 例文⑪

She sang me a song.

→これは難しい。

彼女が歌を歌った時点で、私は歌を聴いているわけだから、to とするべきだといえるけど、歌は私がいなくても歌えるわけだから、for とするべきともいえる。

to と for を使い分ける基準によって、答えが変わる。

なので、とりあえず保留！

## 例文⑫

My mother read me a book.

→これは、母親が本を読み聞かせた時点で、私は本の内容を聞いているわけだから。

My mother read a book **to** me.

でいいね。

## 例文⑬

She wrote me a letter.

→彼女が手紙を書いた時点で、手紙は私に到達していないから、

She wrote a letter **for** me.

とすべきとも考えられる。

でも、そもそも日本語でも

「彼女が私に手紙を**書いてくれた**」って言うのは、受け手が書いてく

れた手紙を受け取って読んだ時に使うんじゃないかな。

そういう意味でも、やはりここは既に手紙が私に**到達している**と考えて、

She wrote a letter **to** me.

とすべきだと思う。

また

for→目標に向かっているがまだ到達していない状態

to→目標に向かって行き既に到達した状態

の考え方は、以下の文の違いを考えると分かりやすい。

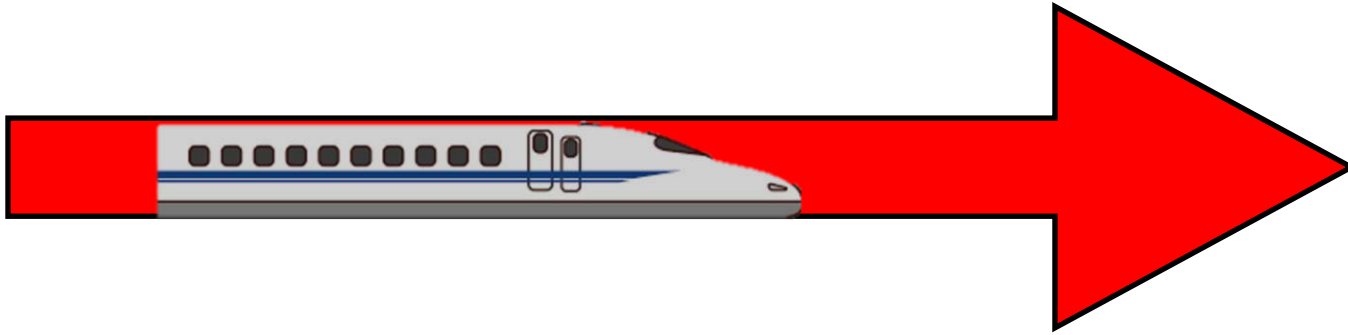
① She left **for** Tokyo.

彼女は東京に向かった。

② She went **to** Tokyo.

彼女は東京に行った。

① She left **for** Tokyo.

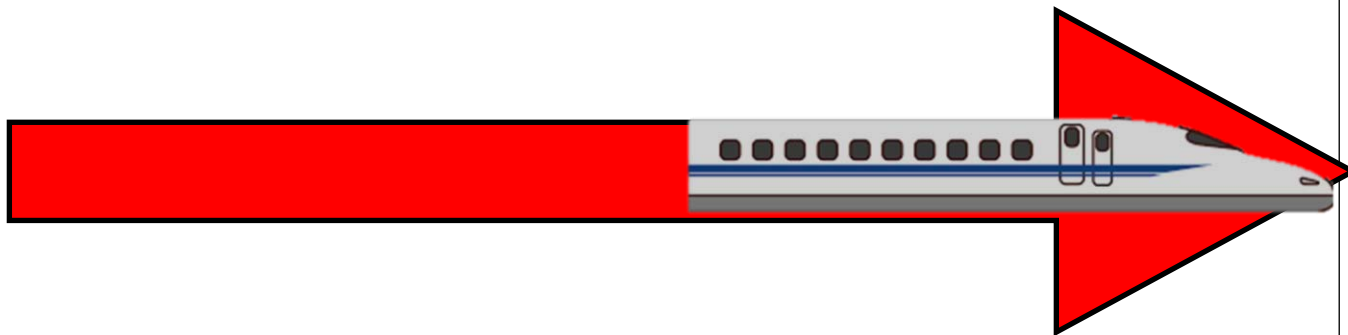


→ 東京に向かっているが、  
まだ着いていない状態。

東京



②She went **to** Tokyo.



東京



→東京に到着した状態。

以上の考え方を基に、最後の

## 例文⑭

My mother left me some cookies.

母親は私にクッキーを残してくれた。

と

## 例文⑮

My father left me a fortune.

父親は私に財産を遺してくれた。

を検証しよう。



## まず、例文⑭

My mother left me some cookies.

母親が家を出る前に、私に(対して)クッキーを残して出て行ったわけだ。

でも、母親がクッキーを残した時点では、クッキーは私に到達していない。

なので、

My mother left some cookies **for** me.

とする。

## これに対して例文⑮

My father left me a fortune.

これは、父親が fortune(財産)を遺して、残念ながら亡くなったという意味なので、fortune(財産)は私がすでに相続しているといえる。すなわち、財産は私に到達している。なので、

My father left a fortune to me.

とする。

文章の意味を考えて、for と to を使い分けるパターンだね。

長くなっただけど、以上で  
第4文型→第3文型+Mのパターンの分析を  
終わりにします。

次回のファイルは、第5文型(SVOC)の  
分析をして、その次に関係代名詞(which,  
whose, that など)をやろうと思います。

## 第3文型、第4文型、第5文型

↑ この辺りを完璧に理解したら、その後の関係代名詞も面白いぐらいわかるようになる。そうすればいよいよ日本語→英語の変換が効率的にできるようになって、楽しくなってくると思う。